

第2章 みどりの保全と創出

第1項 みどり豊かなまちづくりのために

1 練馬区みどりを愛し守りはぐくむ条例など

(1) 練馬区みどりを愛し守りはぐくむ条例

区は、民有地の樹林を保全するために、全国の自治体に先駆けて憩いの森（市民緑地）制度を創設しました。これを契機として昭和52年には、「みどりを保護し回復する条例（昭和52年3月練馬区条例第1号）」を制定し、みどりのまちづくりを進めてきました。

その後、練馬のみどりを取り巻く環境が著しく変化したため、新しい緑化制度等を盛り込んだ「練馬区みどりを愛し守りはぐくむ条例（平成19年12月練馬区条例第79号）」を新たに制定しました。

(2) 練馬区みどりの総合計画の策定

区は、平成10年に都市緑地法に基づく「練馬区みどりの基本計画」を策定し、総合的に緑化施策を進めてきました。平成21年には、みどりの実態や社会動向、関連する法制度の状況を踏まえ、基本計画を改定しました。平成31年4月には、区民が実感できるみどり豊かなまちづくりの実現に向け、より積極的、効果的な施策を展開するため、新たに「練馬区みどりの総合計画」を策定しました。

この計画では、30年後に練馬のみどりに満足している区民を80%にするという目標を掲げ、目標達成に向けた2つの基本方針として、みどりのネットワークの形成とみどりを育むムーブメントの輪を広げることを定めています。

(3) 練馬区緑化委員会

練馬区みどりを愛し守りはぐくむ条例第9条に基づき、「みどりの保全および創出に関する重要な事項を調査審議するための組織」として、昭和52年4月に設置しました。

区長の諮問に応じて、みどりの基本計画の策定・変更に関すること、みどりの保全および創出に関する重要な事項等について調査審議します。委員の任期は2年で、区民等、区議会議員、学識経験者の委員20人以内で構成しています。

令和4年度は4回開催し、「みどりの総合計画の中間見直し」等について審議しました。

2 みどりのネットワークの形成

(1) みどりのネットワーク形成の推進

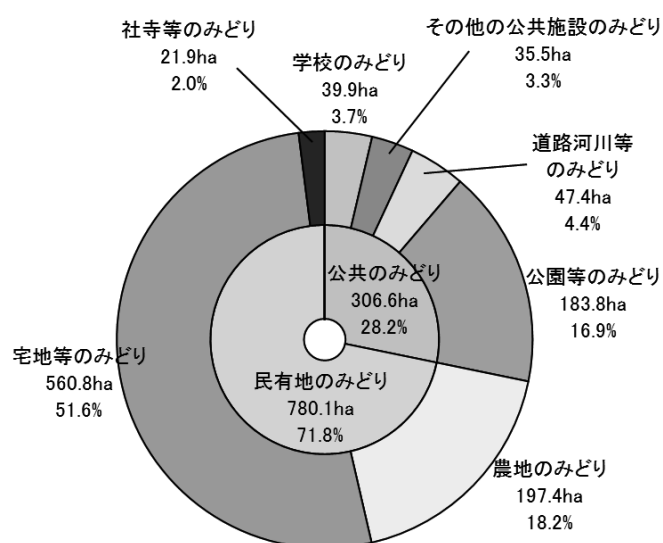
区の緑被率（草地、樹林地や農地などのみどりに覆われた面積の割合）は、22.6%であり、減少傾向にあります。

「練馬区みどりの総合計画」に基づき、みどりの拠点としての公園の整備や樹林地の保全、それらをつなぐみどりの軸となる道路や河川沿いの緑化により、みどりあふれるまちづくりを進めています。

緑被率の推移

年度	緑被率
平成 23 年	25.4%
平成 28 年	24.1%
令和 3 年	22.6%

公民別緑被状況の内訳（令和 3 年）



(2) みどりの普及啓発施設

〔四季の香ローズガーデン〕

平成 28 年 5 月に花とみどりの相談所温室植物園跡を整備して開園しました。香りの異なる 6 種類のバラを分けて配置した「香りのローズガーデン」の他、「色彩のローズガーデン」、「香りのハーブガーデン」など四季折々に五感で楽しめる庭園です。管理運営は指定管理者が行い、令和 4 年度の来園者数は 132,845 人でした。

〔牧野記念庭園〕

昭和 33 年 12 月に故・牧野富太郎博士の偉業を後世に伝えるため、邸宅跡を整備し開園した庭園です。令和 2 年 3 月に都指定文化財（名勝及び史跡）になりました。令和 4 年度は、牧野博士生誕 160 年記念事業として、特別展を 4 回開催し、ヒメアジサイの記念植樹や書斎の再現等を実施しました。令和 4 年度の来園者数は 61,001 人でした。



四季の香ローズガーデン



牧野記念庭園

[土支田農業公園]

平成5年5月に、野菜づくりを通して自然と触れ合い、農文化に親しめる公園として開園しました。農場スタッフの指導のもと、畑作りから収穫までを体験できる農業教室を開催し、毎年100世帯が参加しています。

[こどもの森緑地]

平成27年4月に子どもたちがみどりを活用した、木登りや泥遊びなどの自然体験ができる施設として開園した緑地です。プレーリーダーが常駐し、子どもたちが自由な発想で遊べるようサポートしています。令和4年度の来園者数は34,347人でした。



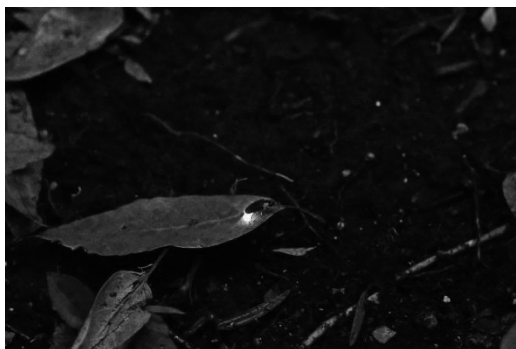
土支田農業公園



こどもの森緑地

[中里郷土の森緑地]

平成29年3月にみどりや生き物と触れ合う体験ができる施設として開園した緑地です。周辺の町会や商店会の協力により、毎年、ホタルの観察会を開催しています。令和4年度は、13日間で1,096人の参加がありました。また、年間の来園者数は10,903人でした。



中里郷土の森緑地のホタル

(3) 公共施設の樹木管理

区立中学校での倒木事故を契機に、令和3年8月に全区立施設で樹木の緊急点検を実施し、倒木の危険性が高い樹木の伐採、せん定を行いました。

この対応を踏まえ、令和2年1月に策定した「公共施設の樹木育成保全ガイド」に、樹木点検に関するチェックシートを追加したほか、安全確保などやむを得ず樹木を伐採する際の考え方や事故発生時の連絡体制と対応の方法、台風接近時の対応などを追記し、令和4年1月に改訂を行いました。これに基づき、区内の小中学校や地区区民館、保育園など、公共施設の樹木管理を行っています。

(4) 民有樹林地の保全

区内のみどりの約4分の3は民有地のみどりであり、区は、民有地のみどりを保全する事業を実施しています。

ア 都市計画緑地の拡大

屋敷林などの樹林のうち特に重要なものは、「緑確保の総合的な方針（令和2年7月改定）」に基づき、公有地化による保全に向けて地権者と交渉を進めています。

イ 市民緑地

区は、300㎡以上の樹林について、都市計画税・固定資産税が非課税となる市民緑地制度を活用して保全に努めています。区と所有者は土地の貸借契約（無償）を結び、園路整備や清掃・せん定などの日常管理を区が行うことで、樹林を広く区民に開放しています。敷地面積が1,000㎡以上を「憩いの森」、その他を「街かどの森」と呼んでいます。

市民緑地の推移

(各年度末)

	令和2年	令和3年	令和4年
憩いの森	40 か所	40 か所	39 か所
1,000㎡以上	98,027㎡	99,127㎡	98,387㎡
街かどの森	5 か所	5 か所	5 か所
300㎡以上	2,753㎡	2,753㎡	2,753㎡

ウ 保護樹木・保護樹林

区は、一定の条件を満たす樹木・樹林の所有者からの申請に基づき、保護樹木・保護樹林を指定しています。指定された樹木・樹林の所有者に対して、せん定費の助成や賠償責任保険の加入などの支援を行っています。

保護樹木・保護樹林の推移

(各年度末)

	令和2年	令和3年	令和4年
保護樹木	1,162本	1,152本	1,157本
保護樹林	73か所	74か所	77か所
	20.3ha	20.5ha	20.9ha

(5) みどりの美しい街並みづくり

個人や団体に対して、まとまりや連続性のあるみどりの街並みづくりを支援する取組を進めています。

ア みどりの協定

区は、地域の緑化に取り組む町会や自治会などと協定を結び、苗木を提供するなど、協定地区の緑化活動を支援しています。

みどりの協定の推移

(各年度末)

	協定地区数	協定に基づく支援
令和2年	21	苗木の提供 1,444本
令和3年	21	苗木の提供 1,658本
令和4年	21	苗木の提供 1,771本

イ 区民協働花壇事業

区は、区民団体による公園や区立施設などの花壇管理活動を支援しています。令和4年度は、72か所61団体が活動を行いました。

ウ 緑化助成制度

道路に面した生け垣を新たに設置する場合や、低木等緑化、フェンス緑化等に要する費用の一部を助成しています。令和4年度の助成実績は、生け垣化2件(15.0m)、低木等緑化14件(100.2㎡)、フェンス緑化1件(15.2m)、壁面緑化1件(2.0㎡)でした。

(6) 緑化計画の事前協議

区内で開発行為や建築行為を行うときは、その規模に応じて緑化に関する事前協議をしなければなりません。令和4年度は問合せが2,311件、事前協議申請が787件ありました。

(7) 樹木等伐採の届出

基準以上の樹木・樹林を伐採しようとするときは区長に届け出なければなりません。また、伐採したときは代替の植栽に努めるものとしています。令和4年度は26件の届出がありました。

3 みどりを育むムーブメントの輪を広げる

(1) 個人のみどりを地域で守る活動の拡充

民有地のみどりを地域で守る取組として、区民ボランティアによる落ち葉清掃を、実施しています。令和4年度の活動は6か所の保護樹木・保護樹林地周辺で22回行い、参加者数は218人でした。

(2) 公園や憩いの森の区民管理の拡充

区は、町会や自治会などの地域団体による公園の自主管理活動（清掃・除草等）や、区民団体による憩いの森の自主的管理活動を支援しています。

公園や憩いの森の自主管理活動の推移 (各年度末)

	令和2年	令和3年	令和4年
公園	30か所 22団体	32か所 23団体	31か所 22団体
憩いの森	2か所 2団体	3か所 3団体	6か所 6団体

(3) みどりを守り育てる人材や団体の育成

みどりを守り育てる人材や団体の育成を推進するため、「つながるカレッジねりま」で草花の基礎知識、植栽デザイン、グループ活動のコツなどを学べる「コミュニティ・ガーデナーコース」を実施しています。令和4年度は12回開催しました。また、憩いの森の管理活動に必要な知識と技術を学べる「ねりまの森維持管理コース」を開設しました。令和4年度は9回開催しました。

(4) マッチングの仕組みづくりの推進

令和4年度に、みどりを守り育む活動に参加したい個人と活動の現場をつなげるため、みどりの人材バンク制度をスタートしました。個人登録者数は134人、団体登録数は25団体、マッチング件数は57件でした。

(5) 練馬みどりの葉っぱい基金

区は、平成16年10月に「練馬区みどりを育む基金（練馬みどりの葉っぱい基金）」を設置しました。さらに、令和元年12月には、練馬のみどりを守り育てる活動の中から使いみちを選んで寄付ができる仕組みを構築しました。牧野記念庭園（東大泉六丁目）の書斎再現に528万円、高松みらいのはたけ（高松二丁目）のトラクターの調達に97万円を活用しています。令和4年度末の現在高は2,161,441千円でした。